

演奏に
役立つ

One Point Lesson

太田友香 おおた・ゆか

おた・ゆか

CLARINET

クラリネット



- ◆出身 茨城県立日立第一高校、昭和音楽大学
- ◆所属 東京佼成ウインドオーケストラ
- ◆趣味 食べる事、映画鑑賞
- ◆血液型 AB型
- ◆星座 蠍座
- ◆読者にひとこと 楽しむ心を忘れずに☆
- ◆手紙の送り先 B.J 氣付

タンギングをマスターしよう!! (総括編)

みなさんこんにちは! いよいよあつ〜い夏がやってきました。コンクールが近くなってきて、練習にも熱が入ってきている読者の方々も多くいるのではないのでしょうか!? 私も中学1年生から高校3年生までの6年間、夏はコンクール一色で過ごしてきました♪ 気の遠くなるような音程合わせや、生まれて初めて自分の心臓の音が聴こえるほど緊張したコンクールの舞台袖など、すべてが懐かし〜くとても大事な思い出です。今でもコンクールで演奏した曲は暗譜しています。毎日打ち込んでいた事はずっと自分の中に残っているものなのですね! みなさんもコンクールや演奏会など、何かに一生涯懸命打ち込んで努力して得られる経験、仲間と協力して得る体験をたくさんしてくださいね(〜)

さあ、それでは今月も張り切っていきましょう! 前はタンギングの基礎であるテヌートについてお話しましたが、今回はスタッカートや、その他のタンギングの応用についてお話をしていきます。

まず、【譜例1】の①を見てみましょう。【図】にもありますが、この二分休符では舌でリードの振動を止めながら、舌のすぐ後ろでは息がマウスピースに入ろうとする圧力がかかった状態を保ちます。きれいなタンギングを身につけるためには、この休符時の息の圧力がポイントになります。例として、指先でホースの先を^{さへぎ}遮ったり開放したりしながら

【譜例1】 ♩=60~120



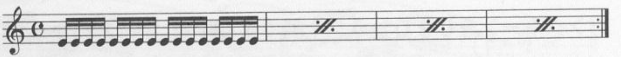
【譜例2】 ♩=80



【譜例3】 ♩=80



【譜例4】



ら水を流している場面を想像してみてください。水を遮っている間も蛇口は閉じておらず、水が外に出ようとする圧力が指先にかかっている状態になりますよね。指を離せばすぐに水が出ます。この状態を「水=私たちの息」「指先=舌」に置き換えて、息の圧力をかけたまま舌をリードから離したらすぐに息が流れて音が出るという仕組みを確認しながら、さっそく吹いてみましょう! 同じ要領で【譜例1】②、③も練習しましょう。少し舌の動かし方に慣れてきたでしょうか? 続いて【譜例1】④を見てください! クラリネット奏者にとってはとても難しいスタッカートの練習です。発音時に舌をリードから離して素早く戻し音を止めます。このときにリードミスが起こったら、舌をつけるリードの面積が広すぎるのが考えられるので、テヌートのときと同様にリードの先端に舌が触れることを意識しましょう。

それと、タンギングをしたときにお腹が一回一回動いてしまっていたら、息の圧力がきちんとかかっていることになりません(ロングトーンと同じようにお腹で支えてください)。私もかつて一回一回息が止まっていたためタンギングのたびににお腹が動いてしまい苦戦しました(コツをつかむまで根気と忍耐のいる鍛練です)。これを少しずついろいろな音域で練習して、上手にタンギングできるよう地道に頑張っていきましょうね!

先程までの練習では、音の形がようかん型のタンギングをやってきました。続いては、アクセントなどの余韻のあるタンギングについて一緒に考えていきましょう。【譜例2】を見てみ

てください。今度は、息のスピード・圧力を自在に操ることがポイントになってきます。音の出だしが一番速い息で始めて、音の処理で息のスピードをゆるめることによって余韻をつけます。この場合の休符時には息だけが残るよう、自分の息の「サー」という音を聴いてみましょう。聴こえましたか? この息づかいに慣れてきたら【譜例3】や、その他いろいろな音符でもアクセントの表現を試してみましょう!

さて、前回と今回でさまざまなタンギングのお話をしてきました。練習のための大まかな例としてテヌート、スタッカート、アクセントを取り上げましたが、曲によってはテヌートやスタッカートでもようかん型でない余韻の必要なもの、アクセントがついていても、ようかん型に近い形で表現するものなど、状況によって使い分けなければなりません。指揮者の先生からどのような要望があっても応えられるよう、さまざまな種類のタンギングができるように準備しておきたいですね☆

そうそう! 最後になりましたが、よく「どうしたらタンギングが速くなりますか?」と質問をされます。私が中学生の頃、「そもそも、口で言えなきゃ楽器で速く舌がつけるはずがない」ということで、帰り道やお風呂中、夜寝る前などのちょっとした時間をつかって、口で「ラララララララ……」と自分のできる最高速度で滑舌^{かつぜつ}よく言い続ける練習をしていました。それと同時に楽器でも、【譜例4】をテヌートで、一定に舌つきできる速いテンポで2分間(日替わりで音域を変えて)プレスを取りながら続けます。これを毎日していたら、いつの間にか舌つきの速さについての悩みが解消されていきました。みなさんもぜひ、試してみてくださいはいかがでしょうか!?